

ちょっと道德

庭坂小学校

道德便り

第22号

平成29年3月17日(金)

ちょっと紹介！校長先生の授業 ～卒業する6年生へ～

3月16日(木) 校長先生の6年生の授業をご紹介します。



- ・ 6年
- ・ 指導者
竹之下道子
校長先生
- ・ 主題
「夢やあこがれに
向かって」
- ・ 教材
「野口英世」
(自作資料)

本年度で退職の竹之下道子校長。もうすぐ卒業する6年生との最後の授業として、そしてご自身の最後の授業として、道德の授業を行いました。たくさんのテレビ局、新聞社が取材に訪れ、始めは緊張した様子の6年生でした。しかし、いつもと変わらぬ校長先生の明るさと優しさに安心したのか、みんな本気で考え、真剣に話し合うことができた、あっという間の45分間でした。

本時の授業は、福島県の偉人「野口英世」を通して、「いじめなどの困難を乗り越え、夢やあこがれを実現するにはどうすればよいか」という学習テーマを設定した「問題解決的な学習」でした。

また、校長がくじけそうな英世役を演じ、子供が英世の友達役として言葉をかける「役割演技」を取り入れた「体験的な学習」もあり、自分ならどうするか」深く考えることができた授業でした。授

業の後半には、原発事故で福島県から避難している子供たちに対するいじめ報道について自分の考えを伝え合う「自分のこととして考える」場面もありました。なかなか無くならない「いじめ問題」に鋭く切り込んだ授業でした。

道徳は、平成30年度から「特別の教科 道徳」となります。大津市の中学生のいじめを苦しめ自殺した事件などからいじめ問題や道徳教育の大切さがクローズアップされ、いじめ防止策の一つとして、道徳が教科化への流れとなりました。今までの道徳よりも、教材で読み取った内容や道徳的な価値を、「自分のこととしてとらえること」が重視されます。そのためには、教材を読み取るだけでなく、「問題解決的な学習」や「体験的な学習」を取り入れて、子供が主体的に「考え、議論する」授業を行う必要があります。まさに、本時の校長先生の授業は、子供や保護者の方々はもちろん私たち教員にも「道しるべ」となる貴重な授業だったのではないかと思います。

授業の後、6年生一人一人が「自分で選んだ一文字の漢字」を校長が書いた色紙贈呈式を行いました。また、忘れられない思い出ができました。



♡これからも学校と家庭、地域が力を合わせて「にわかこの心」を育てていけたらと思います。♡

(文責 遠藤 優子)